

# 守れ イワテヤマナシ

奥州・菊地さん、千葉さん

奥州市水沢真城のステーキハウス経営菊地憲野さん(72)は、同じ地域の千葉博美さん(78)と協力して絶滅が危惧されるイワテヤマナシの植栽を始めた。果実の香りと酸味の強さを生かし、見学者受け入れや食材利用を計画。貴重な地域資源を守り、宮沢賢治の童話「やまなし」と絡めた地域活性化や沿岸部との交流につなげる。

菊地さんの自宅敷地内で今年、約20本を接ぎ木し、来年秋の収穫を見込む。年明けには新しく苗木を植える予定。住民らに香りを楽しんでもらうほか、学校給食の素材として広まることも期待している。

イワテヤマナシは、本県を中心とした北上山系に自生する野生のナシ。冷害に強く古くは保存食に使われたが、近年は絶滅が危ぶまれるほど減少。奥州市にも自生しているが「価値が忘れ去られている」と菊地さん。2人は童話「やまなし」にも良い匂いと紹介されていることから着目し、九戸村や宮古市の活用事例も視察した。

千葉さんは、栽培を軌道に乗せた上で「東日本大震災前につながりのあった沿

## 植栽活動を開始 香り、酸味期待 活用時期

接ぎ木したイワテヤマナシの生育を見守る菊地憲野さん（左）と千葉博美さん



岸の地域と交流を再開するきっかけにもなれば」と描く。

接ぎ木の提供などはイワテヤマナシの保存活動に取り組む神戸大学院農学研究所付属食資源教育研究センターの片山寛則准教授が協力。「比較的温暖な県南での新たな取り組みが、地元価値を見つめ直す展開につながることを期待したい」と注目している。

（佐藤俊男）